

改訂日 2024年9月27日 (第5版)

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	キックボクサー細粒剤 F
デザインコード	A18055D
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104-6021 東京都中央区晴海1丁目8番10号オフィスタワーX 21階
担当部門	HSEグループ
電話番号	03-6221-1027
Eメールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
推奨用途	除草剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
生殖細胞変異原性	区分 2
発がん性	区分1A
生殖毒性	区分1B 追加区分
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器系、免疫系、腎臓)
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1
GHS ラベル要素	
絵表示又はシンボル	

注意喚起語	危険
危険有害性情報	H320 眼刺激 H341 遺伝性疾患のおそれの疑い H350 発がんのおそれ H360 生殖能または胎児への悪影響のおそれ H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ H372 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(呼吸器系、免疫系、腎臓)の障害のおそれ

H401 水生生物に毒性

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

- 安全対策 P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P260 粉じん／ミスト／蒸気を吸入しないこと。
P263 妊娠中および授乳期中は接触を避けること。
P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 応急措置 P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：：医師の診察／手当てを受けること。
P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
P391 漏出物を回収すること。
- 保管 P405 施錠して保管すること。
- 廃棄 P501 内容物や容器を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性
知見なし。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分

化学名	CAS No.	含有量 (%)	化審法(ENCS)/ 安衛法 (ISHL) 番号
プロスルホカルブ	52888-80-9	7.0	4-(6)-385(安衛法)
リニユロン	330-55-2	1.75	(3)-2193(化審法) 4-(13)-44(安衛法)
ビス(2-エチルヘキシル) スルホサクシネート・ナトリ ウム塩	577-11-7	1.1	(2)-1623(化審法)
ポリエチレングリコール	25322-68-3	1.0	(7)-129(化審法)
シリカ(結晶質)	14808-60-7	47.5	(1)-548(化審法)

4. 応急措置

一般的アドバイス	緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意すること。
吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移す。 呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。 患者を暖かく安静にしておく。
皮膚に付着した場合	直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。 直ちに汚染された衣服を脱がせる。 直ちに多量の水で洗い流す。 皮膚の炎症が続く場合は、医師に連絡する。 汚染された衣服は再使用する前に洗濯する。
眼に入った場合	直ちに、最低 15 分間はまぶたの内側も含め、多量の水ですすぐ。 コンタクトレンズをはずす。 直ちに医師の診察を受ける必要がある。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受け、この容器ないしラベルを見せる。無理に吐かせない。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	既知または予期される症状はない。 眼刺激。 遺伝性疾患のおそれの疑い。 発がんのおそれ。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。 授乳中の子に害を及ぼすおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
医療関係者への情報	特定の解毒剤はない 対症療法を行う。

5. 火災時の措置

消火剤	小規模火災時： 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	大規模火災時： 耐アルコール性泡消火剤、噴霧放水 棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。
特有の危険有害性	可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生するおそれがある(「10. 安定性及び反応性」参照)。 分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。
特有の消火方法	火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止する。 水を噴霧して密閉容器を冷却する。
消火を行う者の保護	完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する予防措置	「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。
------------	---

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。
河川または下水システムに排水しない。
製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。

封じ込め、浄化の方法及び機材

除去方法 漏出物を閉じ込め、電気掃除機または湿ったブラシにより集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる(項目 13 を参照)。
汚染面を十分に浄化する。
洗剤で拭く、溶剤は避ける。
汚染された洗浄水を保管し、処分する。

参照すべき他の項目

処分上の配慮については項目 13 を参照。「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 火災に対する特別な対策は必要ない。
皮膚や眼への接触を避ける。
使用中は飲食及び喫煙を禁止する。
個人保護については項目 8 を参照する。

接触回避

知見なし。

保管

安全な保管条件 特別な保管条件は必要ない。
容器を密閉して、乾燥した、涼しく換気の良い場所で保管する。
子供の手の届かないように保管する。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
プロスルホカルブ	52888-80-9	TWA	4mg/m ³	Syngenta
リニユロン	330-55-2		未設定	-
シリカ(結晶質)	14808-60-7		0.03 mg/m ³	日本産衛学会
		TLV-TWA	0.025 mg/m ³	ACGIH

設備対策

ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる。
保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。
空気濃度を管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度値以下に保つ。
必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求める。

保護具

呼吸用保護具	通常、呼吸用保護具は必要ない。 労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合、適切な認定呼吸器を使用する。
手の保護具	
材質	ニトリルゴム
破過時間	>480min
手袋の厚さ	0.5mm
備考	保護手袋を着用すること。適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々測定されなければならない。手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにでもある場合は、手袋を破棄し取り替えなければならない。
眼の保護具	密着性の高い安全ゴーグル 製品と眼が不慮に接触する可能性を払拭できない状況では常時ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。 汚染された衣服は洗浄してから再使用する。 不浸透性衣服を必要に応じて着用する。
保護対策	個人用保護具ではなく技術的対策を優先する。 個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求める。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	淡褐色
臭い	データなし
融点／凝固	データなし
引火点	データなし
pH	6.4(20%水懸濁液)
自然発火温度	データなし
溶解度	データなし
水溶性	データなし
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
見掛け比重	1.3(20℃)
相対ガス密度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
粒子サイズ	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の条件下では安定。
反応性	合理的に予想できるものは、なにもない。
化学的安定性	通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	通常の使用条件において既知の危険な反応はない。
避けるべき条件	指示通り使用すれば分解しない。
混触危険物質	知見なし。
危険有害な分解生成物	通常の条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスを発生するおそれがある。

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報	飲み込んだ場合 吸入した場合 皮膚に付着した場合 眼に入った場合
----------------	---

製品

急性毒性(経口)	LD50(ラット, メス): >2,000 mg/kg
急性毒性(経皮)	LD50(ラット): >2,000 mg/kg

成分

プロスルホカルブ

急性毒性(経口)	LD50(ラット, オス): 1,049 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50(ラット, オスおよびメス): > 4.72 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
急性毒性(経皮)	LD50(ウサギ, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

リニュロン

急性毒性(経口)	LD50(ラット) 1,146 mg/kg (HSDB (Access on May 2020))
急性毒性(経皮)	LD50(ラット): > 2,000 mg/kg (EPA Pesticides RED (1995)、農薬工業会「農薬時報別冊「農薬技術情報」第10号(1992))

皮膚腐食性/刺激性

製品

種	ウサギ
結果	極めて軽度の刺激性
皮膚刺激性なし	

成分

プロスルホカルブ

種	ウサギ
結果	皮膚に刺激性なし。

生殖細胞変異原性—アセスメント 動物実験では遺伝子の突然変異または催奇性効果は発現されなかった。

リニュロン

生殖細胞変異原性 - アセスメント 動物実験において遺伝子の突然変異への影響はなかった。

シリカ(結晶質) 区分 2

発がん性

区分 1A に分類されるシリカ(結晶質)をカットオフ値の 0.1%以上含有しているので区分 1A とした。

成分

プロスルホカルブ

発がん性—アセスメント 動物試験において発がん性の証拠は無い。

リニュロン

発がん性—アセスメント 発がんの恐れが無い。

生殖毒性

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。

授乳中の子に害を及ぼすおそれ。

成分

プロスルホカルブ

生殖毒性 - アセスメント 証拠の重要性からすると、生殖毒性物質として分類されない

リニュロン

生殖毒性 - アセスメント 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

ビス(2-エチルヘキシル)スルホサクシネート・ナトリウム塩

生殖毒性 - アセスメント 追加区分:授乳に対する又は授乳を介した影響に分類される

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

区分外

成分

プロスルホカルブ

アセスメント 呼吸器への刺激のおそれ。臓器(全身性)の障害のおそれ。

リニュロン

アセスメント 呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(呼吸器系、免疫系、腎臓)の障害のおそれ

成分

プロスルホカルブ

アセスメント 長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(血液系、肝臓)の障害のおそれ。

リニュロン

アセスメント 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(区分2)

シリカ(結晶質) 本製品は政府による GHS 分類結果(2015)において、区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)と分類された結晶質シリカ(石英)を不純物として 10%以上含有するため、区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない。

12. 環境影響情報

生態毒性

製品

魚毒性 LC50 (Cyprinus carpio (コイ)):44 mg/l
ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 EC50 (Daphnia Magna (オオミジンコ)): 6.4 mg/l
ばく露時間: 48h
藻類/水生植物に対する毒性 ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 1.2 mg/l
ばく露時間: 72 h

成分

プロスルホカルブ

魚毒性 LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.84 mg/l
ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (急性毒性) EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.51 mg/l
ばく露時間: 48 h
藻類/水生植物に対する毒性 ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.120 mg/l
ばく露時間: 72 h
最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.009 mg/l
エンドポイント: 成長速度
ばく露時間: 72 h
ErC50 (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0.180 mg/l
ばく露時間: 72 h
EC10 (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0.082 mg/l
エンドポイント: 成長速度
ばく露時間: 72 h

M-ファクター (水生環境有害性
長期(急性))
魚毒性(慢性毒性)

1
EC10 (Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)): 0.063 mg/l
ばく露時間: 32 d

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性(慢性毒性)

最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.045 mg/l
ばく露時間: 21 d

M-ファクター (水生環境有害性
長期(慢性))

10

リニュロン

藻類/水生植物に対する毒性 藻類(ムレミカツキモ) 72時間ErC50 = 0.035 mg/L(水域の生活環境動物の被害防止に係る農薬登録基準の設定に関する資料, 2017)であることから、区分1とした。

魚毒性(慢性毒性)

急速分解性がなく(BODによる4週間分解度:0%(METI既存点検結果, 1982))、魚類(ニジマス)の80日間NOEC <0.042 mg/L(EPA RED, 2002)から、区分1とした。

残留性・分解性

成分

プロスルホカルブ

生分解性

結果: 易分解性ではない。

水中での安定性

分解半減期: 159 - 279 d

リニュロン

水中での安定性

急性分解性無し。(BOD による分解度: 0%/4 weeks (METI 既存点検結果, 1982))

生体蓄積性

成分

プロスルホカルブ

n-オクタノール／水分配係数
(log 値)

Log Pow=4.48 (30°C)

生体蓄積性

備考: 生体蓄積性がある

リニュロン

n-オクタノール／水分配係数
(log 値)

Log Pow=3.2

生体蓄積性

備考: 低い生態蓄積性。BCF=23

土壤中の移動性

成分

プロスルホカルブ

環境中の分布

備考: 土壤中でわずかに移動する

土中での安定性

消失時間: 35 d

消失割合: 50 % (DT50)

備考: 製品は持続性ではない

土壌中での移動性のデータなし

リニュロン

オゾン層への有害性

非該当

他の有害影響

成分

プロスルホカルブ

PBT および vPvB の評価結果

物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。物質は、極めて難分解性、高生体蓄積性 (vPvB) ではない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

残余廃棄物

薬剤または使用済み容器で池、水路、溝を汚染しない。

廃棄物を下水へ排出してはならない。

可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用の方が好ましい。

リサイクルできない場合は、地域の規制に従って処分する。

汚染容器及び包装

残りの内容物を空にする。

容器は 3 回すすぐ。

空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

空の容器は再利用しない。

14. 輸送上の注意

国際規則	
国連番号	UN3077
品名	Environmentally Hazardous Substance, Solid, N.O.S. (Prosulfocarb, Linuron) 環境有害性物質(固体)、N.O.S. (プロスルホカルブ、リニュロン)
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
輸送時の安全対策	運搬に際しては、容器に破損、漏れのないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。直射日光、風雨に直接ばく露しない状態で輸送する。

15. 適用法令

関連法規	
農薬取締法	
登録番号	第 23013 号
消防法	
	危険物、指定可燃物に該当しない。
化審法	
労働安全衛生法	
製造等が禁止される有害物	
	非該当
製造の許可を受けるべき有害物	
	非該当
健康障害防止指針公表物質	
	非該当
変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)	
	非該当
変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)	
	非該当
名称等を通知すべき危険物及び有害物	
	法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量(%)	備考
結晶質シリカ	47.5	—
リニュロン	1.75	—

名称等を表示すべき危険物及び有害物
法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
結晶質シリカ	—
リニュロン	—

危険性又は有害性等を調査すべき物

化学名	備考
結晶質シリカ	—

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

第一種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量(%)
プロスルホカルブ	646	7.0
リニュロン	174	1.75

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

非該当

航空法

非該当

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 非該当

個品輸送 非該当

水質汚濁防止法

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

16. その他の情報

記載内容の取扱い

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。

当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジェンタは責任を負いません。

その他の略語全文

ACGIH

米国。ACGIH 限界閾値(TLV)

ACGIH BEI

ACGIH - 生物学的ばく露指標(BEI)

安衛法(管理濃度)

作業環境評価基準、健康障害防止指針

日本産業衛生学会

許容濃度等の勧告 - II.生物学的許容値

日本産業衛生学会(許容濃度)

日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度

ACGIH / TWA

8 時間、時間加重平均

ACGIH / C

天井値

安衛法(管理濃度) / ACL

管理濃度、基準濃度

日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M

許容濃度